

第1回「人中心の道路空間」のあり方に関する検討会 議事概要

日時：令和6年6月26日（水）13：00～14：30

場所：中央合同庁舎3号館道路局A会議室（TV会議システム）

～事務局より資料を説明し、意見交換を行った。

1. 今年度の検討会

- ・意見なし

2. 路肩等の柔軟な利活用事例

1. 路肩等の柔軟な利活用に関する取組状況

- ・今回の主な議論の対象となるパークレット自体が複合機能化の可能性が考えられる。例えば、海外では滞在機能とグリーンインフラを組み合わせた実験事例や駐輪施設の同時設置などがある。今後、日本でも地域の実情に合わせた複合的な機能を組み合わせる事例が増える可能性がある。別途で検討されている取組みとの一体的運用に向けて、整合性をとることが重要である。
- ・まちづくり活動をしていると自転車のあり方が問題になることがある。検討しようとする通りやまちの状況にもよるが、モビリティハブとは違う観点で、自転車の使われ方（停め方、停められ方）を整理してはどうか。
- ・自転車は各地で話題になっているはずなので、それぞれのまちで自転車がどうなっているか事例収集して欲しい。

2. 国内事例

- ・パークレットの利用ニーズを検討する際に、パーキングメータの利用データが活用できる。実践編として、具体的な活用方法を示せると良い。
- ・パークレットの恒久的な設置事例が増えているので、追加検討して欲しい。
- ・時間帯に応じた使い方が進むと、植樹帯を残しながら空間再編を進められる可能性がある。
- ・パークレットの維持管理を進めるにあたり、活動を行うための収益活動と維持管理費の収支をどう考えていくかが課題になる。
- ・パークレットを設置する際に、神戸や元町の設置事例が望ましいと思うが、一方で、歩道の車線側を飛び出させて設置する方法も考えられる。この場合、車の衝突などの安全対策が課題となるが、例えば、横断歩道部分を膨らませて狭窄のようにして、停車帯の様に凹んだ空間をパークレットとして活用することも恒常的な設置をする際の視点としてあった方が良いと思う。
- ・効果計測方法について、来訪者と滞在者を分けて評価するなど、人の動き方についてきめ細かい分析が重要と考えられる。滞在と来訪者の純増を評価できる方法を示すことが必要である。
- ・時間帯に応じて使い分ける歩道と荷捌き空間について、空間の定義をはっきりさせる必要がある。

3. 海外事例

- ・日本と海外のパークレットの違いとして、海外は、面的にまちに展開することを前提として仕組みを構築していると思われる。日本では、ある場所で行政が中心に効果検証していく段階である。スタートラインが違うと思われるが、将来的には量的、面的に展開を目指していくことを前提に議論を進めると良いと思う。
- ・パークレット等を利活用してもらおう活動団体を公募するのかなど、活動主体の選定方法が課題となる。例えば、メルボルンではパークレットに面したカフェが占用主体になるなど、日本の様に協議会が主体になる必要がない運用が行われている。また、構造安全基準や景観への配慮に関しても、示されている。日本の場合はどうするか、考え方の整理が必要である。
- ・メルボルンでは、中心市街地の道路空間の戦略ビジョンである「フューチャー・ストリート・フレームワーク」の策定を進めている。まち全体のビジョンに基づいてパークレットの活用を考える考え方であり、このような考え方があった方が、地域の人も取り組みやすいと思われる。今回の検討を進める上での参考となる。
- ・メルボルンでは、歩道・パークレット・車両の速度規制を一体で考えて整理している。このような考えも必要になる。
- ・道路交通法を前提にして、(パークレットのある)道路区間のあり方を考える必要がある。

4. 事例の整理

- ・道路附属物での設置といった表現だと、一般的には分かりづらい。一般の方が良くわかる示し方が必要である。

5. 今後の議論の論点（案）

- ・導入エリア、路線の選定に関して、大都市だけでなく中小都市にもどのように展開するか考えながら進める必要がある。例えば、福山市では駅前エリアでほこみちと組み合わせ、まちを変えていこうとのプランが示されている。このような人々が滞在し交流できる空間を増やす取り組みとのリンクや、朝市などの比較的規模の小さい拠点での活用事例など、連続性を確保する仕組みの議論の展開を期待。
- ・パークレットとほこみちの関係性が不明瞭であると考え。パークレットの上にほこみち区域を設定できる可能性もある。一般的に分かりやすいガイドラインとするためにも、どのような場所でどのような利用形態の場合は、どういった方法があるかなど議論を進めて、整理いただきたい。
- ・パークレットの設置位置の考え方について、その前後区間や周辺のエリア全体を含めた、交通安全面も考慮した方向性を整理してはどうか。自動車利用から歩行者中心の利用にもってこるための論点としてあった方が良い。

3. 今後の進め方

- ・今回の議論をふまえ整理を行い、次回は、ガイドラインの骨格が見える形で議論することとしたい。

以上